


平成20年12月29日

(財)日本体操協会審判委員会  
女子体操競技審判部

2009年版 女子採点規則 F I G情報 (2008年12月)

F I Gの公式ホームページより2008年12月付けで採点規則の変更部分が公開されました。採点規則での正式発表は2009年1月に行われるインターコンチネンタル講習会以後になると思われませんが、国内選手の練習等に影響があると思われるので以下を国内伝達致します。




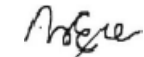










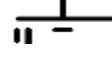
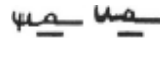







条項	項 目	内 容
5.3.2	同じ技番号であるならば同一技とみなされる	<p>&lt;以下を追加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 前方や後方の車輪で閉脚または開脚;腰を曲げたまたは伸身での実施。</li> </ul> <p>&lt;全て削除&gt; 2.104に関する記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 横向きと縦向きの実施 (平均台) &lt;以下を追加&gt; 横向きで始まり縦向きで終了するジャンプ、またはその逆も縦向きのジャンプとみなされる</li> </ul>
5.3.4	組み合わせ点	<削除> (段違い平行棒の例外、9.2参照)
7.	体勢の要求 伸身	<以下に変更>
	羊とび/輪とび(ジャンプ)	<p>承認要求: 身体の姿勢が「アーチ」でさらに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足を閉じて頭へ(頭に付くように)</li> <li>・上体はアーチ姿勢で頭部後屈</li> </ul> <p><u>D審判団</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 足と頭の距離が肩幅 -1つ下の難度</li> <li>- 足と頭の距離が肩幅より広い -難度なし</li> <li>- アーチ姿勢がない/または頭部後屈がない -難度なし</li> </ul> <p><u>E審判団</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- アーチ姿勢が不十分 -0.10</li> <li>- 脚または膝の開き -0.10/0.30</li> </ul>
	ヤンボー	(20度より多く開かない)を(45度不足より開かない)に変更
8.3.1	境界線からの踏みだし	<ul style="list-style-type: none"> <li>- レーンの内側への着地であるが、レーンのラインに近い -0.10</li> <li>- レーンの外へ片足が出た着地 -0.30</li> <li>- レーンの外へ両足が出た着地 -0.50</li> </ul> <p>注:初めての接触で判断する</p>
8..6	種目特有な実施減点	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 規定されたひねりの時期が早すぎる (0.5の減点削除)</li> <li>- 伸身姿勢を保てない (0.5の減点削除)</li> </ul> <p>第1空中局面と第2空中局面に以下の減点を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 膝の曲がり (0.1/0.3/0.5)</li> <li>- 脚または膝の開き (0.1/0.3)</li> </ul>
9.2	演技の内容と構成	<全て削除> 空中局面を伴わない同一系統の技に関する記載
9.3	構成要求	<p>&lt;以下に変更&gt;</p> <p>3-少なくとも2つの異なる握り(振り上げ倒立、開始技と終末技は除く)と棒に近い回転系(空中局面を伴わない)の技</p>

9.4	組み合わせ点	<以下に変更> ・「D（空中局面を伴う）+ C」を「D（高棒から低棒）+ C」に ・すべてのC/D難度の技は空中局面か少なくとも1/2ひねりを伴わなければならない。
		<シンボルマーク変更> 
10.3	構成要求	<以下に変更> 2-ターン
10.4	ダンス系ターン	<解説変更> A + C（またはその逆） 同じ支持足で実施、またはステップして逆の足でターンへ （片足または両足のわずかに膝を曲げた準備動作は認められる）
11.2	アクロラインの定義	空中局面を伴う両足踏み切り（リバウンド）で支持のない技を1つは含む（混合の組み合わせも含む）もの。
11.3	構成要求	<以下に変更> 1-180度の前後開脚の跳躍技を1つは含む、少なくとも2つの異なるダンス系の技での移動
	終末技	最後のアクロラインが終末技となる。もしアクロラインの実施が1本の場合、終末技なしと判断される。

第6条 一般欠点と減点表（変更部分のみ記載）

欠 点		小	中
		0.10	0.30
—着地前の身体の伸ばしが不十分	各	×	
—柔軟性（身体の柔軟性）が不十分	各	×	
技での姿勢と脚の位置			
— 身体の姿勢が悪い	各	X	×
— つま先が伸びない	各	X	
— アクロバット系とダンス系の技で開脚が不十分	各	X	X
— 開脚が台/床に平行でない（ダンス系）	各	X	
<b>演技全体を通して：</b>			
— スピードや迫力（以下の内容）が不十分		X	X
• 演技中活力が持続し、実施に余裕が見られる			
• “大変難しい” ものも容易に見える			
• スピードがあり機敏に最高点へ到達し、力強さを維持しながらも軽い			
— 身体の姿勢が悪い		X	X
— つま先が伸びない/足が緩む		X	
— 足が内向き		X	
— 運動の可動範囲が不十分（柔軟性に欠ける）		X	X
— ダンス系の動きでの姿勢不良		×	×
— 大きさが不十分		×	×
— 非常に大きなステップまたはとび（肩幅より広い）	各		X

難度表の変更

段違い平行棒	2. 104 	削除
	2. 105 	削除
	3. 310 	削除
	6. 405 	削除
平均台	1. 308  	 シンボルマーク変更 削除
	3. 202  3. 203 	削除
	5. 406 	5. 404 へ移動
	5. 411	 (D) 追加
	6. 302  (かかえ込み)	6. 202 (B) へ移動
ゆか	1. 101 	削除
	1. 102	 (A) 追加
	1. 102 	1. 107 へ移動
	1. 103 	1. 101 へ移動
	1. 304 	1. 309 へ移動
	1. 314 	1. 414 (D) へ移動
	2. 302 	2. 402 (D) へ移動
	2. 303 	2. 403 (D) へ移動
	2. 304 	削除
	2. 401 	2. 501 (E) へ移動
	5. 302 	5. 402 (D) へ移動